2015 年 度 入 学 試 験 問 題

世 界 史 B

（試験時間　10：30～11：30　60 分）

1．この問題は，入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ，解答してください。

2．解答用紙は，記述解答用紙のみです。

3．解答は，必ず解答欄に記入してください。なお，解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。

4．解答は，HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し，訂正する場合は，プラスチック製の消しゴムを使用してください。

5．解答用紙には，受験番号と氏名を必ず記入してください。

I　以下の文章を読み，設問に答えなさい。(30点)

ヨーロッパ中世史の一つの特色は，都市が重要な役割を演じたことである。特に中世ドイツは地方分権が著しく，都市の独立性も高かった。しかし，都市が周辺領主権力に抗して独立を維持していくのは至難の業であり，何らかの形の連合勢力を形成する例も見られた。

13世紀以降，中世都市の確立に伴い，①ライン都市同盟，シュバーベン都市同盟などが結成されたし，帝国都市（自由都市）の地位を獲得する都市も現れた。

北ドイツ都市の中で珍しく既に13世紀に②リューベックが帝国都市の地位を得ている。リューベックは建設当初こそザクセン大公ハインリヒ獅子公の保護を得ていたものの，大公の失脚に伴い，その立場は弱体化し，当時膨張傾向を示していた③デンマーク国王の脅威にさらされていたのである。ここでいう帝国都市は，帝国に属するということよりも，帝国以外のいかなる権力の下にも立たないという点に価値があった。すなわち，聖俗，大小のいかんを問わず，領主・君主が都市の領域に権力的に介入することが禁じられたのである。リューベックには皇帝への一定の貢納義務が課されたが，それでも政治的には全く自由であり，とりわけ経済政策が都市の自由となった意義は大きかった。しかも，帝国に直属するとはいっても，④皇帝自体は特に北方に対しては実権もなく，関心も乏しかったので，帝国都市になるということは完全なる自主独立に等しかった。

これに対して，⑤ケルンの帝国都市化は⑥大司教からの独立を目指すものであった。ケルン市民の大司教に対する蜂起は11世紀後半から始まり，周辺中小諸侯の支援も得て，ついに1288年にケルン市とその同盟軍と大司教軍との間でのヴォーリンゲンの戦いで前者が勝利し，ケルン市は大司教から完全独立を達成するに至る。ただし，ケルン市が帝国都市の地位を明文で正式に認められるのは15世紀に入ってからであった。もちろん，それ以前にケルン市は慣習法によってその地位を事実上認められていた。それには，ケルン市の経済的・政治的な実力がものをいったのは間違いないが，さらに，ケルン大司教との実力闘争の際，ケルン大司教の強大な権力に脅威を感じた多くの周辺中小諸侯が，ケルン市に接近し，これと同盟を結ぶに到り，こうした勢力によってケルン市が事実上，大司教とは別個の主権勢力として扱われ，周辺諸侯と同

盟を形成していたことが重要であった。こうして，いわばケルン市は，皇帝のお墨付きを得る前に，慣習法として自己の独立性を押し通してしまったのである。

リューベック同様に，実力主義ではなく，正式の手続きを経て，帝国都市の地位を13世紀に神聖ローマ皇帝から獲得した都市にウィーン⑦があるが，その地位は短命に終わった。リューベックの場合には，デンマーク王国などの外敵は存在したが，周辺の商業路を特定君主によって一括的に掌握されてはいなかった。それに対してウィーンの場合には，ハプスブルク家⑧という強力な君主家系が強大な支配権を有しており，特に周辺商業路は同家に掌握されてしまっていた。これでは帝国直属など意味はなく，ウィーンの帝国都市の地位はこうした客観的事情のゆえに永続性をもたなかったのである。

問1　下線部①に関連して，中世イタリアの都市同盟の例を一つ挙げなさい。

問2　下線部②に関連して，12世紀から14世紀にかけて，ハンザ同盟のロシア貿易の拠点となった，ゴトランド島の都市は何か。

問3　下線部③に関連して，北欧連合王国の実質支配者でカルマル同盟の結成者と言われるのは誰か。

問4　下線部④に関連して，皇帝カール5世とイタリア戦争で戦ったフランス王の名前を述べなさい。

問5　下線部⑤に関連して，ケルン市の起源はローマ帝国によって建設されたコロニアにまでさかのぼることができるが，現在のパリ市（フランス）の起源となった古代ローマ都市は何か。

問6　下線部⑥に関連して，金印勅書（1356年）に定められた7選帝侯のうちケルン大司教以外の聖界選帝侯を一人挙げなさい。

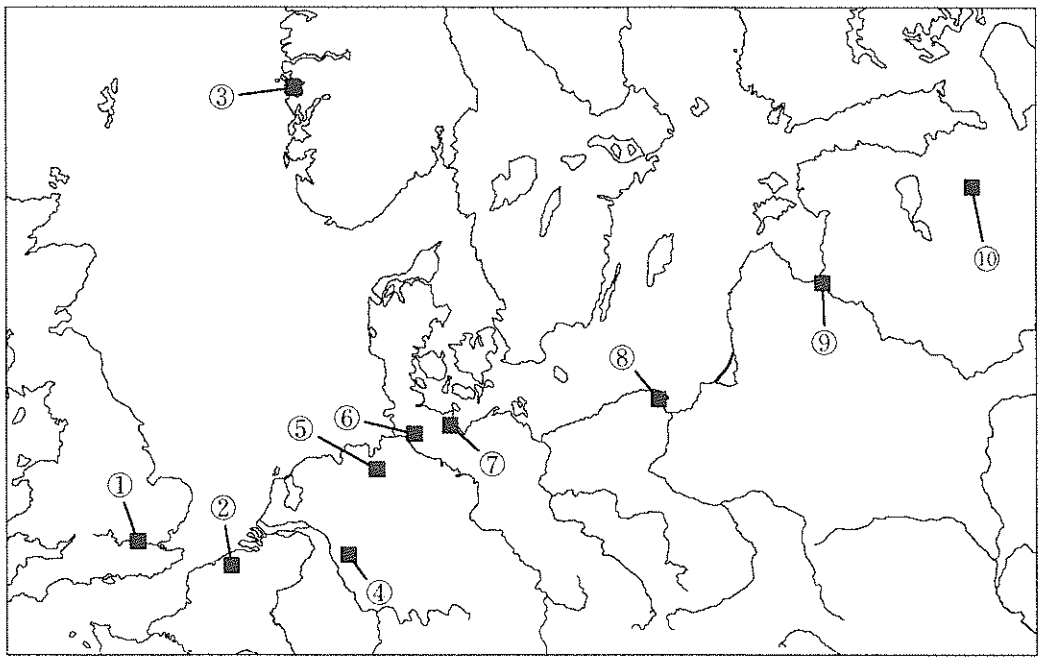
問 7　下線部⑦に関連して，1529 年にウィーンを包囲したオスマン帝国皇帝は誰か。

問 8　下線部⑧に関連して，1291 年に誓約同盟を結成し，ハプスブルク家の支配に反抗をはじめ，後にウェストファリア条約で正式に独立を認められた国は何か。

問 9　中世ヨーロッパにおける商業の復活後の遠隔地貿易について，地中海商業圏と北ヨーロッパ商業圏の相違を以下の語句を用いて論じなさい。なお，解答中で下記の語句には下線を引きなさい（150 字以内）。

北イタリア諸都市，ハンザ同盟，奢侈品，生活必需品，商館

問10　ハンザ同盟加盟都市の中で，以下の地図中でリューベックおよびリガに対応するもっとも適切な番号を記しなさい。



II　以下の文章中の空欄A～Jにもっとも適切な語句を記入しなさい。(20点)

共和政末期，当時終身独裁官と大神官を兼ねていた（　A　）は，政治と宗教の両権力を握っていることを利用して，暦法改革を断行した。彼は，ムセイオンがあったエジプトの（　B　）の天文学者の意見に従い，太陽暦を採用した。1太陽年は365.25日とされたので，4年ごとにうるう日が2月に挿入された。この暦は多少正確さを欠いていたが，わかりやすく，先々の活動を予定し組織するのに都合がよく，実質的に16世紀まで効力を保つ。

4世紀以降，この暦はキリスト教会に取り込まれ，しだいにキリスト教化されていく。4世紀初めにコンスタンティヌス帝がキリスト教に改宗し，（　C　）帝によってキリスト教が国教化されると，キリスト教徒たちは特権的立場に立つようになり，自分たちの時間的枠組みを帝国全体に受け入れさせるまでになった。教会暦はクリスマスと復活祭を二大柱として，キリストの生涯（誕生・死・復活・昇天）をたどっていく。4世紀から9世紀にかけてこの暦は整備され，その後ほとんど変わることがなかった。

しかし，この暦の1年は1太陽年よりも11分4秒長すぎた。この誤差は2世紀に天動説を唱えた（　D　）も既に指摘し，また中世最大の自然科学者と呼ばれ，13世紀に活躍した（　E　）も改暦の必要性を訴えた。復活祭の主日は春分後の満月直後の日曜日と定められているが，この誤差が積み重なった結果，公式には3月21日と定められていた春分が，16世紀には3月11日にずれてしまい，社会の1年と太陽の1年とが一致しなくなっていた。

1514年，ローマ教皇レオ10世はラテラノ公会議で，暦法改革に関する意見聴取を提案するが，反響は少なく，例外は1年の長さを正確に決定するための計算に没頭したポーランドの聖職者（　F　）だけだった。彼の著作『天体の回転について』は地動説を展開するもので，教会の世界観と相いれるものではなかったが，そこにあげられた一連の計測値はきわめて精度が高く，改暦のための信頼のおけるデータとなった。

1575年，ローマ教皇グレゴリウス13世が命じた暦法改革は，宗教改革によって弱体化した教会を立て直そうという努力の一環でもあった。教皇の目的は，教会のつかさどる時と自然のつかさどる時の調和をはかり，春分の日が325年の（　G　）公会

議で決められた3月21日から大きくずれないようにすることである。

さらに，教皇の胸には，時に対する教会の支配力を再確認したいという思いもあった。時あたかも宗教戦争の真っ最中であり，一歩間違えれば暦が教会の手を離れる危険もあった。1太陽年が1日の整数倍ではないという根本問題は，結局，カラブリアの医師ルイジ・リッリオの提案に従い，これまでの暦では4年に1回と定められていたうるう年を，400年ごとに3回減らすことで解決することになった。また，過去に蓄積されたずれを修正するために，10日を削除し，1582年10月4日の翌日を1582年10月15日とすることになった。

グレゴリオ暦は，ヨーロッパのカトリック国ではさっそく実施されたが，プロテスタントはなかなかグレゴリオ暦を認めなかった。この50年ほど前に，改暦計画の噂を聞いたルターは，暦法は世俗の権威にゆだねるべきであり，教会が関与すべきではないと公言しており，プロテスタントは新しい暦法を教皇派の策謀の露骨な表現とみなしていた。しかも，その中心にいるグレゴリウス13世は対抗宗教改革の熱心な推進者であり，1572年の（　H　）の虐殺を手放しで喜んだ人物でもあった。

グレゴリオ暦に対する異議申し立てが最も急進的だったのはフランス革命の時で，（　I　）派が議会から追放された1793年から1805年までの12年間，革命暦が使われた。

革命暦は1793年10月5日，恐怖政治の最中に発令された。新しい暦は非キリスト教化を目指し，明確にして正確，単純にして普遍的であろうとした。同じころ度量衡改革が行われ，十進法に基づくグラムやメートルなどの単位が強制されたが，革命暦も同様に集団生活の合理化を目指す運動の一環であった。新しい暦では十進法が用いられ，月より小さい区分単位はすべて10の倍数になり，1日は24時間ではなく10時間になった。1年は12ヶ月だったが，1ヶ月はどれも30日で，10日を単位として3つの期間に分けられた。1年の日数から12ヶ月の日数を引いた5日間は「（　J　）の日」として年末に置かれ，4年ごとにうるう日が1日挿入された。

※空欄Jには「半ズボンなし」を意味する革命派民衆の一般的呼称が入る。

III　以下は1898年1月に康有為が清朝皇帝に上呈した『『日本変政考』序』の抜粋である。この史料を読み，設問に答えなさい。(30点)

大から小に，強から弱に，存から亡になったものがあります。よく見きわめなければなりません。小から大に，弱から強に，亡から存になったものがあります。よく見きわめなければなりません。近くは万国に交通が開かれ，互いに覇を競い，強でなければ弱，大でなければ小，存でなければ亡で，中立の理はありません。大から小になったものに，①トルコがあります。強から弱になったものに，インド・②ビルマ・③ベトナム・④ヒヴァ・アゼルバイジャン・マダガスカル・アフリカ全土があります。これらはみな守旧不変で，君主は自尊し，民と隔絶していた国です。亡から存になったものに，⑤シャムがあります。小から大になったものに，⑥ロシアがあります。弱から強になったものに，日本があります。これらはみな変法維新を行い，君主がよく民と通じあった国です。その効果はてきめんで，文明も進んでいますが，わが国と最も近いという点で，日本に及ぶものはないでしょう。……

ヨーロッパが五百年追い求めてきたものを，日本は二十年で成功させました。その効果の速さは，地球上かつてなかったものです。……こうして日本は強国となり，欧州の独仏などの大国と拮抗するに至ったのです。とはいえ，その領土はと言えば，区々たる三島〔本州・四国・九州を指す〕にすぎず，その人口はと言えば，三千万にすぎません。いずれもわが国の十分の一です。なのに東アジアに武威をとどろかせ，世界に名を知られるのは，その原因を探ってみるに，旧俗をことごとく改め，大政維新を行ったからではないでしょうか。

無念なのは，これまで日本のことを語ってきた人々が，順序を追った変革の理をわきまえず，変化のあとさきの宜しきを知るすべがなかったことです。乙未の講和〔1895年の下関条約調印〕が成ってから，日本の群書を収集し，……ようやく日本の変法の曲折した経緯を理解したので，十巻にまとめ，表・注を付しました。⑦中国の変法がこれを鑑とするなら，守旧の政治・風俗が同じで変革の条理も違わないのですから，……もれなく実行すれば効果があらわれるでしょう。……日本の変革の成功例だけを取り入れ，うまくいかなかった失敗例は捨てるというわけです。……しかも人口・領土・物産は十倍です。半分の努力で倍の効果が得られるだけではないでしょう。

（村田雄二郎編『新編原典中国近代思想史』２，岩波書店，2010年，236-239頁より。〔　〕内は注釈。）

問１　下線部①に関連して，オスマン帝国が衰退し，近代トルコ国家になる過程で独立または他国領となり，失われた地域として，正しくないものを選び，記号で答えなさい。

ア　エジプト　　イ　ギリシア　　ウ　セルビア　　エ　ソマリア

オ　ルーマニア

問２　下線部②に関連して，ビルマの王朝は18世紀後半，タイやインド東部に進出するなど強盛を誇ったが，19世紀末に滅亡した。この王朝の名前を以下から選びなさい。

ア　アユタヤ朝　　イ　コンバウン朝　　ウ　シャイレンドラ朝

エ　パガン朝　　オ　ファーティマ朝

問３　下線部③に関連して，ベトナムの植民地化前後の歴史について記した以下の文章の中から，正しくないものを選びなさい。

ア　阮福暎はフランス人の宣教師ピニョーらの助けを得て，1802年タイソン（西山）党を破って全ベトナムを統一し，ハノイを都とし，阮朝を建てた。

イ　ナポレオン３世のフランスは，インドシナへ進出に努め，1862年にサイゴンを中心とする南部を奪った。

ウ　フランスはコーチシナからメコン川をさかのぼってカンボジア王国を保護国化した。

エ　フランスはさらにベトナムを保護国化したが，清朝はこれを認めず，1884年清仏戦争が起き，清朝は敗れて宗主権を放棄した。

オ　1887年にはベトナムとカンボジアをあわせてフランス領インドシナが成立し，後にラオスもこれに加わった。

問 4　下線部④に関連して，ヒヴァ＝ハン国のほかに 19 世紀後半にロシアに征服，支配された国または地域の名称としてもっとも適切なものを選びなさい。

ア　アフガニスタン　　イ　カシミール　　ウ　クリミア　　エ　ブハラ

オ　ペルシア

問 5　下線部⑤に関連して，1880 年代のタイ（シャム）で行われた改革について，（ア）これを行った王の名前を記し，（イ）改革の主たる内容を 80 字以内で述べなさい。

問 6　下線部⑥に関連して，康有為は他に「俄彼得（ロシア・ピョートル）変政記」を著し，ピョートル大帝による改革を参照すべきことを論じている。これに関連し，以下の問いに答えなさい。

（ア）ピョートル大帝時期のロシアの王朝の名称を記しなさい。

（イ）この皇帝の時に作られたロシアの都の名称を記しなさい。

（ウ）この皇帝の時期，清朝と最初に結んだ条約の名称を記しなさい。

問 7　下線部⑦に関連して，本史料をふまえて，1898 年に行われた中国の改革の内容と結果について，100 字以内で述べなさい。

IV　以下の文章を読み，空欄A～Gにもっとも適切な語句を入れ，設問に答えなさい。ただし，同じ記号には同じ語句が入る。(20点)

ベンガル地方はインド亜大陸の東北に位置し，ガンジス川・ブラフマプトラ川等より形成される複合デルタ地域であり，現在のバングラデシュとインドの西ベンガル州を合わせた地域に相当する。全域がほぼ平坦な沖積平野であり，豊かな水と亜熱帯性気候に恵まれ，農漁業が盛んで，約2億4000万人の人口を擁する。

ベンガルはどのような地域であるのか。また，なぜインドとバングラデシュに分断されているのか，地域の歴史を探ってみよう。

紀元前4世紀のおわりにチャンドラグプタが建てた（　A　）朝はインド最初の統一王朝で，第3代アショーカ王の時期には広大なインドのほぼ全域にその支配が及んだといわれ，ベンガル北部にもアショーカ王の詔勅が刻まれた磨崖碑が残されている。また，ベンガル西隣のビハールはその政治・文化の中心であり，同王朝の首都（　B　）がおかれた。その後，ベンガルには，紀元4世紀から6世紀にかけて北インドを支配したグプタ朝，紀元7世紀前半にハルシャ=ヴァルダナが建てたヴァルダナ朝の影響力が及ぶこともあったが，王朝にとっては辺境地域にとどまった。

8～12世紀には，ベンガルを中心とした初の王朝としてパーラ朝が成立し，仏教が栄えた。ついで12～13世紀にはヒンドゥー王朝のセーナ朝がベンガルを支配したが，1204年，ムハンマド=ハルジーは同朝の首都を攻略し，以降，ベンガル地方はイスラーム王朝支配の時代に入り，イスラーム化も進展した。

1526年にバーブルが（　C　）の戦いでロディー朝を破って建てたムガル朝は，インドのほぼ全域を征服し，大帝国を形成し，ベンガル地域もその支配下に入り，皇帝から任命された太守（ナワーブ）が統治にあたった。だが，その最大版図を実現した第6代皇帝（　D　）の死後，18世紀に同帝国の衰退が進むと，太守の自立化が進み，ベンガルは実質的に太守の支配下に入った。ムガル帝国時期，ベンガルはインドでもっとも豊かな地域の一つとなり，ガンジス河口部の開発が進み農漁業が発展したほか，絹や綿の最大の産地であり，またガンジスの水運の便により，内陸の特産物の集散地でもあった。

このようなベンガルの豊かさと交通の便のため，①16世紀にポルトガル人が初めて

来航したほか，17世紀中期以降，オランダ，イギリス，フランスがベンガルに進出した。1651年，イギリス東インド会社はベンガルで最初の商館を設け，1702年にはカルカッタ（コルカタ）の地にウィリアム要塞を築き，②フランス東インド会社との間でインドの商権をめぐり激しく争った。結局，1757年，（　E　）の戦いでクライヴ率いるイギリス東インド会社軍はベンガル太守・フランス連合軍を破り，これによりインド貿易の覇権を獲得したばかりか，ベンガルの徴税権を獲得し，以後インド内陸部の植民地経営に乗り出した。1833年にはイギリス・ベンガル総督はインド総督と改称し，カルカッタはインド政庁がおかれ，以後20世紀初めまでイギリスのインド統治の中心地となった。

ベンガルはイギリス植民地時代，インドでもっとも近代化が進んだ地域となり，文化面でも豊かな成果を出し，多くの人材を輩出した。アジア最初のノーベル文学賞受賞者である詩人タゴールは特に有名である。また，ベンガルは植民地時代，インド民族運動の中心地ともなった。このため，1905年，インド総督は（　F　）を出し，イスラームとヒンドゥーの宗教的差異を利用して，インド民族運動の分断を図った。これに対し，国民会議派は1906年にカルカッタで大会を開き，イギリス製品不買，③スワデーシ，スワラージ（自治），民族教育の推進の4綱領を決議，激しい反対運動を展開した。結局，1911年末，イギリスは（　F　）の廃止と首都のデリー移転を発表したが，この間，1906年ダッカで全インド=ムスリム連盟が結成され，インド民族勢力の間の亀裂も表面化した。

第2次世界大戦後，インド独立をめぐる英印交渉において，インド国民会議派と全インド=ムスリム連盟との対立は収拾がつかず，激しい宗教暴動と争乱の中，（　G　）年にインドとパキスタンとが分離独立した。この際，ベンガルは再び東西に分割されることとなり，西ベンガルはインドに，東ベンガルはパキスタンの一部となった。だが，パキスタンではイスラーム以外に国をまとめるべき紐帯を欠き，国土は東西に分断され，東部は人口は多数を占めたが，政治的・経済的・言語的に西部に対して劣勢におかれていたため，住民の間で不満が高まった。

1970年末，パキスタン国会選挙で東部を基盤とするアワミ連盟は圧倒的勝利を獲得したが，パキスタン軍部及び西部政治勢力はこれを弾圧した。これに反発した東部・ベンガル住民の間で独立運動が展開し，1971年3月，バングラデシュ（ベンガ

ル人の国）の独立が宣言され，さらに第3次インド・パキスタン戦争でのインド軍の勝利に助けられ，同年末，独立を達成した。

問1　下線部①に関して，ポルトガルはインド西岸の港市には15世紀末に初めて到着している。この港市の名前を記しなさい。

問2　下線部②に関して，ベンガルにおけるその拠点となった町の名前を記しなさい。

問3　下線部③に関して，その意味を記しなさい。